

猫の飼育は屋内で!

※室内飼育に努めることは、環境省「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準」第5猫の飼養及び保管に関する基準に明記されています。

猫の適切な飼育の仕方

猫によるトラブルは全て、飼い主の知識不足が原因!



飼育前にしっかり勉強することが何より大切です。



外で暮らし、感染症などの病気になった猫。

これらは適切ではありません!

- 「トイレのために外に出している」
誤った飼育方法です。室内にケージを設置してトイレを置いて、ケージ内で半日~1日過ごさせてください。猫は必ずトイレで排せつするようになります。
- 「外で走らせてあげたい」
人間側の思い込みです。外には、命を落とすリスクがたくさんあります。

必ず脱走防止対策を!



つっぱり棒を使って窓が開かないようにするのも、おすすめです。



網戸にはストッパーやロックを取り付け、玄関や窓の開閉時には注意を。



田舎の家は、どこかしら開いていることが多いもの。猫はわずかな隙間からでも脱走してしまいますので、脱走防止の対策は必須です。

室内飼育でも身元表示を!



マイクロチップ

連絡先を書いた迷子札

首輪

猫の首輪は引っ掛かりを防止するために、力が加わると外れるタイプを使用すると良いでしょう。

室内で飼っていても、災害や脱走などの思いがけない出来事に備えて、迷子札やマイクロチップなどで身元表示をしておくことが大切です。

※環境省「宣誓!無責任飼い主ゼロ宣言」
(https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2706e/pdf/full.pdf)を加工して作成

最期まで命に責任を持ちましょう

終生飼育は飼い主の責任として当然のことですが、1人暮らしや高齢の方は、自分が病気や入院などで世話ができなくなったときに備えることが大切。愛する猫を路頭に迷わせないために、あらかじめ準備をしておきましょう。

〈準備しておくこと〉

- 子どもや信頼できる人に後見人になってもらう
- 身近に後見人がいなければ、ペット信託などの制度を活用する
- 猫にかかる医療費などの準備

猫の飼い主さん必見! /

私が死んだあとも愛する猫を守る本

富田 園子 / 著
日東書院本社 / 刊

飼い主が要介護状態になったり、亡くなった後でも、猫の命と暮らしを守るために、必要な知識、備え、支援制度が分かりやすくまとめられた一冊です。



中央図書館で借りられます

屋外にいる猫への適切な接し方

餌を与えている人が飼い主です

猫は、人が餌を与えなければ生きていけません。つまり、屋外に猫がいるということは、誰かが餌を与えているということです。その時点で、その猫は餌を与えている人の「飼い猫」と言えますので、TNR(捕獲・不妊去勢手術・元の場所へ戻す)を実行してください。「かわいそうだから餌をあげる」のではなく、「これ以上、かわいそうな命を増やさない」。それが、本当の優しさです。

人に慣れていない猫なら、医療ケアとワクチン接種を行い、保護猫サイトなどで里親を探すという選択もあります。



無責任な餌やり。

「さくら耳」は増えない猫の目印

TNRでは、手術を受けた猫の目印として耳先をカットします。人に慣れていない猫は譲渡の対象となりますが、外で見掛ける「さくら耳」の猫は、警戒心が強く、屋外での生活に戻った猫たちです。これ以上増えることのない猫たちですので、どうか温かく見守ってあげてください。



こんなときはどうしたらいい?

! けがをした猫やうずくまって逃げない猫がいる

けがをした猫や、うずくまって逃げない猫がいたら、市役所へ連絡してください。自身で対応可能なら、保護して動物病院に連れていき、治療した後に里親を見つけてください。

※首輪を付けているなど、飼い主の手掛かりがある場合は警察へ届け出てください。

! 庭にふん尿をする猫がいて困っている

その猫に餌を与えている飼い主を見つけて、可能であれば避妊・去勢手術をするようお願いしてみてください。ふん尿の臭いは、手術をすることで軽減します。

外には危険がいっぱい!



感染症

- 猫エイズ (猫免疫不全ウイルス感染症)
- 猫白血病ウイルス感染症
- 猫伝染性腹膜炎 など

交通事故

- 車と衝突する
- 車の隙間に入り込む など

迷子

- 予期せぬ事態(大きな音などでパニックになる)
- 病気やけがで動けなくなる
- 繁殖相手を探し放浪する

予期せぬ繁殖

- 望まない子猫が生まれる

近所からの苦情

- ふん尿被害
- ごみを荒らす
- 鳴き声
- 花壇が荒らされる
- 爪で車が傷つけられる など

ケンカ

- 縄張り争い
- メスをめぐる争い など

室内飼育でも避妊・去勢手術を

病気の予防やストレスの軽減になり、繁殖のための争いや脱走、望まない妊娠を予防できます。また、オスの場合は、去勢手術をすることで、あちこちに尿を掛けるスプレー行動を予防できます。